キャラクター名
葛木　時雨　かつらぎしぐれ

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	暗殺者	カヴァー	殺し屋
オプショナル		年齢		性別	男
覚醒	生誕	衝動	破壊	初期侵食率	35 %
出自	疎まれた子	経験	一匹狼	邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	0	1		1
感覚	0	1	0			1
精神	6	0	0			6
社会	2	0	0			2

HP	28
行動値	19
(非装備時)	19
戦闘移動	24
全力移動	48

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志			調達		
運転：	2		芸術：			知識：	2		情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ストライクチップ	射撃	6r+1		7		マイナー使用でダイス+2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
破壊者	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	2	2	シンドローム	-	-	-	-	
効果：	C値-lv 下限7							
クイックモーション	5	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	エフェクト以外のマイナー1回　lv回/シーン							
アサルトルーティン	1	3	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果：	クイックモーションと同時　攻+10							
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	精神置換							
フェイタルヒット	5	4	オート	至近	自身	自動	100	
効果：	DR直前　ダメ+lvD 1回/ラウンド							
灰色の脳細胞	1		常時					
効果：	行動値+精神　基本侵蝕+2							
構造看破	★							
効果：								
写真記憶	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

とある家庭に生まれ、それと同時にオーヴァードとして覚醒していた。
シンドロームがノイマンのため、外見上これといった異常は見られていなかったが、成長するにつれその異常なまでの利発さは頭角を現した。
それにより、もともと望まれた子ではなかった故に両親から愛情を注がれていなかったが、それに拍車がかかった。日常的に虐待を受け、疎まれ続けた。そんな非生産的なことしか出来ない両親のことを、彼もまた疎んでいた。
小学生の半ば、遂に両親に命を奪われそうになった彼は、これ幸いと逆に両親の命を奪い、幼い体１つで裏社会に溶け込んでいった。
裏社会では舐められたら終わりと言わんばかりに、こちらを見縊る三下共を、その灰色の脳細胞で片っ端から物理的に黙らせる方法を打ち出し、それを躊躇うことなく実行して来た。それにより、彼は幼いながらも、裏社会で確かな地位をたった1人で築き上げた。
それからというもの、様々なクライアントから依頼を受け、殺しを始めとした暴力を生業にして来た。
ノイマン故か、彼の立てる作戦は負け知らず。どんなに困難に見える依頼も、単身で容易くこなした。
そんな彼に取り入ろうとする奴はごまんといたが、そんな奴等は信用に値するべくもなく、彼は馴れ合いを良しとしなかった。
綿密な計画により、あらゆる機先を制し、ターゲットを効率良く壊すことを得意とし、気が付けば「破壊者」という名が静かに広まっていった。
そんなことを長年繰り返し青年となった今、彼は霧谷雄吾から依頼を受ける日々を送っている。
変わり映えのない日々に、どこか虚しさを覚えることもあった。
今日もまた、いつも通り殺しの準備を淡々とこなし、自分の武器であるコインを弾きながら紫煙を燻らせる。

合理主義者であり、仕事に関してもプライドなんてものは持ち合わせていない。
緻密な計画を瞬時に打ち立て、運が入り込む余地を極限にまで無くす。それでも、ゼロにできないのが現実。だからこそ、彼は精神統一も兼ねて験担ぎのように、仕事に向かう前やここぞという場面では必ずコイントスをする。大半が表であるが時折裏になることがあり、そういう時に限って不運なことに想定外のことが起きる。